

津万地区まちづくり行動計画

人が生き生き まちが生き生き 笑顔あふれるTUMAの里
オール津万 実現しよう！みんなのまちづくり

平成30年3月
生き生きTUMA協議会
津万地区まちづくり行動計画策定会議
(生き生きTUMA未来予想会議Ⅱ)

～人が活き生き まちが活き生き 笑顔あふれるTUMAの里～ オール津万 実現しよう！みんなのまちづくり

平成28年度1年間をかけて、活き生きTUMA未来予想会議では、皆で地域の課題を洗い出し、課題解決の方法を考え「津万地区第2期まちづくり計画」をまとめました。

平成29年度は、この「第2期まちづくり計画」をもとに、計画の実現のための具体的な方法を考えるため、未来予想会議Ⅱを開催し、「まちづくり行動計画」としてまとめることにしました。

この「まちづくり行動計画」の策定にあたっては、会議のメンバーの興味に応じて、5つの検討・提案チームをつくり、5つのチームそれぞれがテーマに沿って話し合いました。

今後は、地域自治協議会に計画をバトンタッチし、会議メンバーも協力しながら、計画実現に取り組みます。津万地区住民の皆さんにも、積極的なご参加をお願いいたします。

	短期行動計画 (すぐにでも実現したいこと)	中期行動計画 (2～3年のうちに実現したいこと)	短期行動計画 (5年先をめどに実現したいこと)	行政や企業に協力依頼すること
子供たちが 住み続けたい まちをつくる	<ul style="list-style-type: none"> ■子供会と自治協議会との連携の下地をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・子供会と自治協議会との連携をはかる ■子供達の興味のあるものを聞いてみる <ul style="list-style-type: none"> ・子供達の声を聴く ■子供達が地域の大人たちと接する機会をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りのイベントに子供達も協力してもらう ■大人達も積極的に子供達にあいさつする 	<ul style="list-style-type: none"> ■子供達向けのイベントを開催する <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、ゲーム、マラソン、登山、魚釣り等 ■子供達だけでイベントを企画・運営してもらう <ul style="list-style-type: none"> ・子供達に主体的にイベント運営に参加してもらう →子供商店 キッズシアター津万のようなイベント 参考)ミニ・ミュンヘン カエル・キャラバン等 	<ul style="list-style-type: none"> ■できるだけ継続して行う <ul style="list-style-type: none"> ・新しいイベントは常に「続けること」を意識して始める 	<ul style="list-style-type: none"> ■子供達がいそいそ遊べる公園整備 <ul style="list-style-type: none"> ・子供会と自治協議会で協力して公園整備の資料・提案書を作成し、市に提案する ■理想の公園づくりワークショップの開催 <ul style="list-style-type: none"> ・子供達と一緒に、理想の公園を考えるワークショップなどを開催する
お年寄りが 生活に困らぬよう 支援する	<ul style="list-style-type: none"> ■助け合いのしくみ(便利屋センター)をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・制度の設計(受付、連絡調整、派遣、課金など) ・助ける人、助けてもらいたい人を集める ・地区内で同様の取り組みを行っている団体があるため、競合に配慮する ■助け合いのしくみに自家用車搬送を取り入れる <ul style="list-style-type: none"> ・助け合いのオプションとして運営 ・市の福祉セクションと連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■移動手段の登録会員制のしくみづくり ■ネットワーク活用によるマッチングのしくみづくり(IT技術の活用が必要) <ul style="list-style-type: none"> ・開設費用が課題 タブレット配布費用の負担 cf. あいあい自動車(三重県菟野町) 	<ul style="list-style-type: none"> ■取り組みを採算のとれるものにする <ul style="list-style-type: none"> ・取り組みを続けるために採算がとれるようにする(利益を出すためではない) 	<p>①短期</p> <ul style="list-style-type: none"> ■高齢者の移動手段を補完するしくみを行政と交通事業者で検討してもらう ■1日フリー乗車券、タクシー定期券(免許証の返納を条件に) <p>②中期</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地区で車(ワゴン車等)を1台購入させてもらう(企業協賛/行政の助成を検討)
若い人たちが 参加しやすい 地域をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ■大人たちが変わらないといけないことを知る <ul style="list-style-type: none"> ・聞く耳を持つ →聞き上手になる 意見箱をつくる 酒の席も必要 ■若者にも参加しやすいイベントを開催 <ul style="list-style-type: none"> ・子供向けイベントを増やす ・ビアガーデン カラオケ大会など若い人達も参加しやすいイベントを検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ■役員やスタッフの負担を少なくする <ul style="list-style-type: none"> ・役員の数を増やして、仕事を分担し、1人あたりの仕事を減らす ■組織の活性化、役員定年制の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく次世代に活躍してもらえるように、立場を譲ることを検討する ■若者の意見を取り入れる、交流の場をつくる ■女性の役を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ■まちへ出ていく息子や娘を呼び戻す <ul style="list-style-type: none"> ・親の努力も必要 ・「津万に帰ると楽しい」を実感してもらえるようにする 	
地域の かかれた資源を 有効活用する	<ul style="list-style-type: none"> ■今ある資源をより活用する方法を考える <ul style="list-style-type: none"> ・あじさい園の切手発行、Facebook、Instagram、Web 充実 ・あじさいをもっとあちこちに植えてみる ■ボランティアスタッフの充実を図る <ul style="list-style-type: none"> ・あじさいの活動は、ボランティアとして比較的参加しやすい・あじさいを地域活動のきっかけとしてもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ■どんな資源が活用できるかを明らかにする <ul style="list-style-type: none"> ・空き家や農地を貸してくれる人を募集する ・所有者アンケートを行う ■有休農地を使って市民農園を運営する <ul style="list-style-type: none"> ・水道、トイレ等の用意できる所で市民農園を開く ・農園利用者へのPR活動を行う ■利便性やサポート体制を徐々に充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ、料金、法的課題整理 指導者育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■空き家を活用した週末居住施設をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・有志を募ってリフォーム隊を結成する ・事例研究をする ■体験滞在型の仕組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■リフォーム費用に使える補助金の準備 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の遊休資源を活用することは、市行政にとっても価値のあること
地域の活動に 参加する人を できるだけ増やす	<ul style="list-style-type: none"> ■様々なイベントを知ってもらう <ul style="list-style-type: none"> ・既存のイベントにどんな楽しさがあるかを明確に ■楽しいイベントにする <ul style="list-style-type: none"> ・広報に「参加者の声」を導入する ■多くの団体を巻き込む <ul style="list-style-type: none"> ・各種団体の理解と調整を進める ■広報の方法を見直す <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ、回覧、防災無線、掲示板、口コミ、参加賞等 	<ul style="list-style-type: none"> ■主催者側で参加してもらえるようにする <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフとして参加する楽しさを知ってもらう →特に中高生に手伝ってもらえるようにする ■できるだけ次の世代に人に任せてみる <ul style="list-style-type: none"> ・次世代の人に任せる仕組みづくり(参加した人に報酬が出る仕組みが有効) ■参加してくれた人達のつながりをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・参加したどうしがつながれる仕組みをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■地区の同窓会ネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> ・イベントや地域活動に参加してくれた人達のつながりをきちんと残す ・中高生などで、その後外へ出た子達にも連絡をして手伝ってもらう 	<ul style="list-style-type: none"> ■地元企業に協賛の働きかけをしていく <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅や、大山病院など、協働できそうなところへ働きかけをし、イベントを共同開催する

津万地区まちづくり行動計画について

第2期津万地区まちづくり計画（平成28年度）の行動計画策定

「まちづくり計画策定委員会（生き生きTUMA未来予想会議）」では、平成28年度に「第2期津万地区まちづくり計画」を策定しています。これに引き続き平成29年度には、計画の実施主体や実施方法などを示し、より具体的な実現への道のりを明らかにするため、「まちづくり行動計画」づくりを行いました。

津万地区まちづくり行動計画策定会議の開催

策定にあたっては、「まちづくり行動計画策定会議（生き生きTUMA未来予想会議II）」を組織し、平成29年度1年間、5回の会議を開催しました。この行動計画には、津万地区を「将来にわたり、みんなで心豊かに楽しく暮らせる、持続可能な住みよいまち」としていくための具体的な取り組みをまとめました。

津万地区まちづくり行動計画策定会議（生き生きTUMA未来予想会議II）のあらまし

開催日	テーマ
第1回 平成29年7月14日	まちづくり計画の確認・検討チームの編成
第2回 平成29年8月30日	各チームの課題整理・課題解決策の検討
第3回 平成29年10月3日	実行すべき課題解決策の整理とスケジュール提案
第4回 平成29年11月27日	これまでの意見をまとめた行動計画の検討
第5回 平成30年1月27日	先進地見学 神出ファームビレッジ(神戸市西区) 口吉川ふれあいバス(三木市)
第6回 平成30年1月29日	行動計画案の作成

まちづくり行動計画の実現主体について

まちづくり行動計画の実行にあたっては、今後設立を予定している「自治協議会」が引き受けることを前提としています。個別の進め方は自治協議会での検討に任せることとなりますが、この計画では、自治協議会内に編成された「各部会」が、それぞれの計画実現に向けて行動することを想定して内容を記載しています。

ここでは、各部会は計画実施の始動力となる必要があります。そして、早期に地区住民の皆さんから協力者を募り、実行部隊(事業に協力できる人)を増やしていくことが望ましいと考えています。

人が生き生き・まちが生き生き 笑顔あふれるTUMAの里の実現にむけて

まちづくり行動計画の実施にあたっては、平成30年度から、具体的な行動を起こせるように配慮し、「次に何をしたらいいか」ということが具体的に書かれることを目指して作成しました。

今後、できるだけ多くの地区内外の皆さんを巻き込みながら、よりよい津万地区を実現していく具体的な行動を記載しています。

計画は、必要に応じて変更可能なものです。また、自治協議会内での意見調整も必要となります。皆さんの意見によって、適宜軌道修正を加えながら、計画の実現に向け取り組んでいきましょう。